

## しげつじょうあと ふしみじょうあと 指月城跡・伏見城跡の発掘調査

調査期間：令和2年 11月30日（月）～ 12月14日（金）  
調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



### 1 発掘調査について

伏見城跡は、豊臣秀吉や徳川家康が城主となった城で現在の伏見区桃山一帯に存在しました。この伏見城の中では、築城当初の石垣などの遺構が、近年相次いで発見されており、実態の解明が進んでいます。

この城の重要性に鑑み、京都市では平成28年度から保存目的の範囲確認調査を継続的に実施しており、今年は5年目の調査となります。過去4年間の調査では、石垣や建物跡、伏見城に伴う造成土を確認したほか、堆積の状況から、巨大な堀の存在を推定しています。

調査は令和2年11月30日から12月14日にかけて実施し、約38㎡の面積で実施しました。

### 2 指月城跡・伏見城跡について

伏見城跡は、豊臣秀吉が伏見に築いたお城です(図1)。伏見城は築城から廃城までの約30年の歴史の中で、3度の大規模な建て替え・改修があるため、4つの時期に分けて理解されています。すなわち、秀吉が文禄元年(1592)に指月の丘に築いた隠居所である指月屋敷(1期)、翌文禄2年(1593)、城郭に改修した指月城(2期)、地震で倒壊したのち、慶長元年(1596)、北東の木幡山に移転再建した木幡山伏見城(3期)、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いの前哨戦で焼失したのち、徳川氏によって再建されたもの(4期)です。

今回の調査地点は、指月屋敷・指月城の中枢部に位置すると想定されており、木幡山移転後には大名屋敷となります。絵図からは、寺沢志摩守(寺沢広高：初代唐津藩藩主)の屋敷地であったことが分かります。なお、東側は泰長老(西笑承兌：相国寺僧)の屋敷地であり、こ

のあたり一帯の地名「桃山町泰長老」の由来となっています。

### 3 今回の発掘調査成果

平成28年から実施してきた調査は本年で5年目であり、これまで9箇所の調査区を設けてきました。今回は10箇所目の調査区となります。敷地内には東が高く、西が低い大規模な段差が存在し、これは伏見城期の地形の名残であると考えられています。令和元年度の調査ではこの段差途中の斜面部を調査しましたが、現在の地表面から5.5mまで木幡山移転後になされたとみられる造成土で、標高29.0m付近まで掘削しても人の手の加わっていない堆積(地山)を確認できませんでした。

今回の調査では現地表面から2.8mまで近代以降に堆積した土のみを確認しました。調査地点の周辺は、戦前には陸軍工兵隊の作業場として、長年にわたって塹壕掘りの訓練などが行われており、その影響を大きく受けているものと推定できます。さらに下層は重機を使って確認したところ、現地表面から3.2mのところでは地山と思われる層を確認できました。地山を確認できた標高は32.5mですが、近代以降に上部を削平されていると判断できます。しかしながら、昨年度の9区では地山を確認できていないことから、少なくとも3.5m以上に及ぶ大きな標高差が2地点間にあることが分かりました。さらに西側で平成27年度にマンション建設に伴って実施した発掘調査では、標高29.8mで東側に面を持つ石垣を確認しており、その東側には堀があることが確実です。これらの材料から、9区は堀の中、10区は堀の外側とみることができ、指月城の構造解明にまた一歩近づいたと言えます。(新田和央)

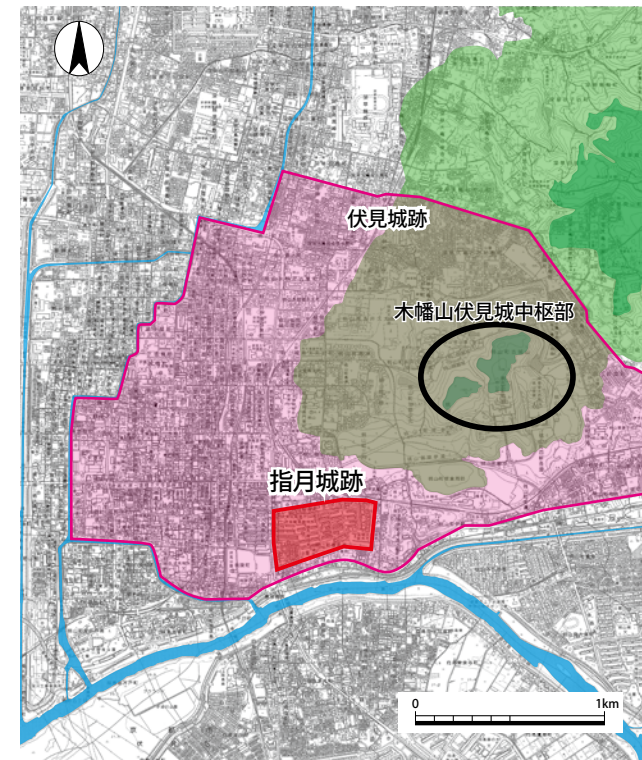


図1 遺跡位置図(1:40,000)



図2 調査区全景(東から)

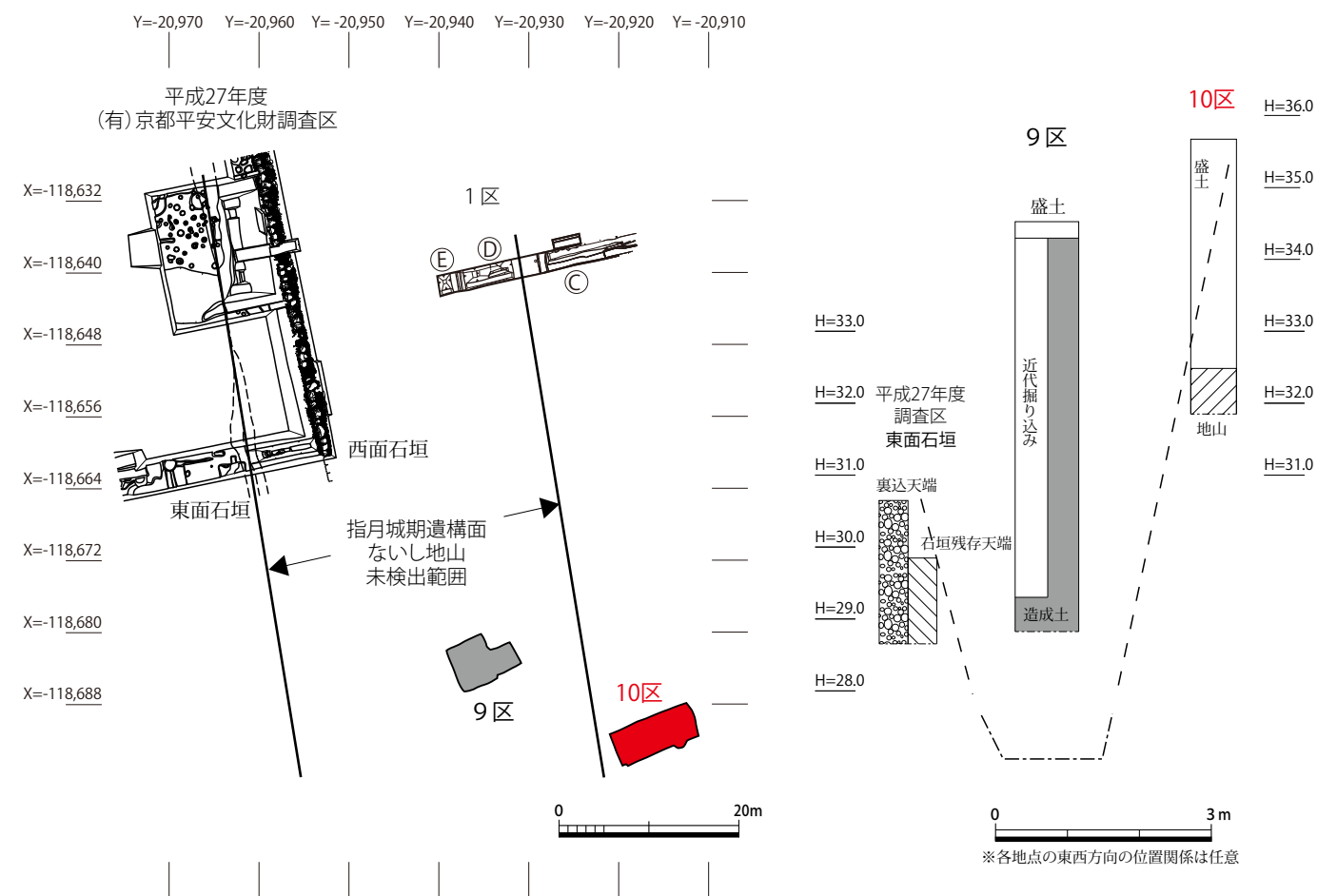


図3 調査区の配置と断面模式図